

## 永田 武先生を悼む



東京大学名誉教授、理学博士永田武先生には去る6月3日に逝去されました。享年77歳でした。

先生は昭和11年3月東京帝国大学理学部物理学科を卒業され、地震研究所助手、理学部助教授を経て、昭和27年本理学部教授に昇任されました。以後、昭和48年9月新設の国立極地研究所の初代所長に就任されるまで、約32年間、本学理学部地球物理学科及び大学院に於て学部ならびに大学院生の教育に尽くされました。

この間、先生は地球電磁気学および超高層大気物理学の各方面にわたる幅広い分野の研究・教育に専念し、先駆的業績を残されるとともに、卓越した指導により多くの人材を育てられました。特に、熱残留磁気の発生機構の実験的解明により、昭和26年に日本学士院賞、昭和43年には東洋レヨン科学技術賞を受賞しておられます。このような岩石磁気学の一連の研究のほか、地球磁場分布、地域異常、永年変化、また地球周辺の電離圏・磁気圏に起因する地球磁場変動の研究にも力を注がれ、数多くの論文を発表しておられます。東京大

### 國 分 征（地球惑星物理学教室）

学における科学行政、研究教育の運営に関しては、理学部における御活躍のほか、宇宙航空研究所の設立推進への御尽力とともに、併任教授として同研究所の発展、ひいては宇宙科学の発展につくされました。

学外のご活躍に目を向けますと、国際地球観測年の南極地域観測の開始に際して、国際的、国内的な体制整備に参画するとともに、第一次から第三次までの南極地域観測隊長として直接昭和基地の建設や観測活動の指導にあたり、その後の南極地域観測・研究の礎を築いたことは普く知られております。また、昭和59年12月のご退官まで11年間にわたり、極地研究所長として一貫して南極地域観測事業・学術研究推進のため尽力されました。

また、国内における学術行政でのご活躍については、文部省測地審議会会長、火山噴火予知連絡会会長などを務められ、地球物理学、電波科学、宇宙科学・宇宙開発、南極観測など、日本学術会議、文部省、科学技術庁、気象庁などの各種委員会に広く参画し、多くの分野の振興に心を砕いてられました。国際学界においては、国際測地学及び地球物理学連合傘下の国際地球電磁気学・超高層大気物理学協会の会長を務め、また国際学術連合の南極研究科学委員会の副会長を務められました。

このような先生のが国の学術の進歩・発展への貢献により、昭和49年11月には、文化勲章を受賞、58年には日本学士院会員に選ばれ、60年には、勲一等瑞宝賞を授与されました。先生の研究業績が国際的にも高く評価されていることは、米、英、独の学協会から外国人会員に推薦され、また名誉

博士号を受けていることから明らかであります。

昨年11月私が南極へ出かける際、毎年船の見送りには行くということで、〔しらせ〕まで元気なお姿を見せられました。その後体調を崩ずされ入院されたと同じ、南極で心配していました。この32次南極地域観測隊の夏の間の大きな仕事として、大気球の南極周回実験を行うことになっておりましたが、12月25日に打ち上げた1号機は、長時間の南極上空での飛翔に成功し、1月9日始めて南極周回を達成しました。先生は、病床にあったにもかかわらず、この3月の学士院の例会でこの実験結果の報告の労を取って下さり、この報告は学士院の紀要に掲載されました。帰国の翌日3月29日に病院にうかがった時には、もうすぐ紀要になると云って、ゲラ刷りを見せてくれましたし、この4月に改組された地球惑星物理学科のことなどにも関心を示されておりました。以前にも増しての南極観測や研究へのご関心の深さに改めて感激致しました。

先生は、〔大将〕と呼ばれるおっかない先生としてある年代の地球物理の卒業生には記憶に残っていると思います。私の大学院時代には、ゼミでしごかれ、monthly reportという毎月の報告に悩

まされたこともありました。学会が近くなり日曜日に大学に顔をださないでいると、雷が落ちるという経験も思い出されます。先生の野球好きは有名で、当時の4年の学生は必ず先生を筆頭とする永田研究室の人達と試合をする習慣がありました。浅野地区には、地球物理の木造の建物くらいしかなく草原でしたが、そこでの練習や御殿下グラウンドでの先生の活躍ぶりはまさに〔大将〕の名にふさわしいものだったと思います。また、先生は大の巨人ファンであり、巨人が負けたときは近寄らない方がよいといったおっかないばかりではない稚気を感じさせる面もありました。

晩年は、辛辣なことはおっしゃらず穏やかに我々若いものに接して下さるようになり、先生から地球物理学科創設の頃のことや国際地球観測年の準備の苦労話でもお聞きしたいと思っておりましたが、この訃報に接し、残念でなりません。ここに、先生の生前の幅広い分野における大きな足跡を偲びつつ、心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。